

◆ 2019年度 活動報告シート ◆

団体名：NPO 法人 秩父百年の森
代表者：理事長 坂本裕三
URL : <https://faguscrenata.com>

22A-30

1. 活動が必要とされた状況

秩父地域にも増えてきた耕作放棄地はイノシシやシカなどの接近を容易にしている。特に苗木はシカの食害が増加している。スギやヒノキなど伐採後に植林する苗木を、地域の山から採取したブナ、カエデ、ミズナラ、トチノキ、キハダまた、サンショウなど有用な樹木を育苗し供給することが求められている。これらの種は発芽から数年は苗木の草刈りが必要なため近郊の荒川地区で苗木に育成している。樹種の適地はより緯度の高いところに生息しているため、少し成長した苗木は荒川上流の大滝地区の畑で育てるのが望ましい。

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

荒川5号畑 『寒冷紗設置』作業 3回 2019年5月 延べ12名

秩父市荒川上田野地区の5号畑に「単管パイプを利用した寒冷紗を設置」。上吉田の千鹿谷地区からサンショウの苗木や前年に山から採取した種の苗木を寒冷紗の下へ移植した。

大滝槌打地区磯田氏の畑 『ソーラーシステムによる電気柵設置』

作業3回 2019年5月～8月 延べ15名

自宅付近の畑でしばらくソーラーシステムのテストを行う。8月大滝槌打地区磯田氏の畑の草刈り整地後、電柵を鹿用に設置。苗木の移動はないが電柵(鹿柵)の状況を観察する。

荒川地区の畑の苗木はキハダを中心に10月から11月に磯田氏の畑へ移植した。

3. 活動の成果

寒冷紗使用は、荒川地区の畑へ植えた苗木に対しては水やりを行わないため2年目までの苗木には寒冷紗は水分の蒸発を抑え苗木の生育は良く大変有効である。8月に電柵を設置するまでは畑にはシカの足跡が沢山あったが、電柵(鹿柵)設置後はシカの侵入は防いでいる。

(秩父市大滝槌打地区 磯田氏の畑)

(荒川5号畑)



4. 今後に残された課題

今回は5号畑に寒冷紗を設置したが、3号畑と4号畑にも寒冷紗を設置したい。2019年台風19号などの巨大台風の際は安全のため一時撤去する必要があった。このところの気象を考えると簡易的な寒冷紗の場合、組立設置と解体撤去の安全管理基準と手順を考える必要がある。周りが住宅の多い荒川地区の畑は現在までシカの食害はないが、シカの糞は散見され、シカの姿も見ることがあり、シカ除け設備の範囲の拡大が予想される。大滝槌打の畑は電柵によるシカの食害は食い止めているがキハダなどはアゲハチョウの幼虫による食害も発生した。電柵と防鳥ネットの複合対策が必要になっている。